

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第3学年

【単元名】 「気持ちがつたわる手紙を書こう」（『ありがとう』をつたえよう）光村図書 全7時間扱い

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
(1) ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	B 書くこと(1) ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えること。

【主な学習活動と留意点】

前単元「書くこと」からのつながり：「気になる記号」

- ・身のまわりの様子を想起したり、取材に出かけたりして、書く材料を集めた。
- ・集めた材料をもとに、伝えたいことを明確にして報告する文章を書いた。

働かせる見方・考え方：手紙の型に着目し、目的や相手と伝えたい内容とを関連付ける。

段階	学習活動（時間）	留意点
第一次	1 今までの手紙を思い出し、相手に喜んでもらうために気をつけたいことを出し合う。(1)	<p style="text-align: center;">単元の見通しをもつ</p> <p>☞手紙のモデル文を提示し、学習計画を立て、目的や相手を確認しながら単元の学習の見通しをもてるようにする。</p>
	2 単元のゴールを知り、学習計画を立てる。(1)	
第二次	単元を通した学習テーマ：「ありがとう」の気持ちがつたわる手紙を書こう。	
	3 手紙を送る相手を決め、内容を考える。(1)	<p style="text-align: center;">目的や相手を意識して、伝えたいことを明確にする</p> <p>☞感謝の気持ちを伝えたい人を想起し、何について「ありがとう」を伝えるかを考え、伝えたいことを明確にする。</p>
	4 手紙の型に沿って内容を考える。(1)	<p style="text-align: center;">手紙の型に着目し、構成を考える</p> <p>☞「はじめのあいさつ」「本文」「むすびのあいさつ」「後付け」の四つの部分に書く内容をメモし、構成を考える。</p>
第三次	5 手紙を書き、読み返す。(1)	<p style="text-align: center;">事例と感じた気持ちとの関係性を明確にして 単元の重点</p> <p>☞感謝の気持ちを伝えたい出来事や事柄を挙げながら、その時の様子や感じた気持ちを詳しく書く。</p>
	6 宛名を書き、手紙を送る。(1)	<p style="text-align: center;">目的や相手意識に立ち返り推敲する 単元の重点</p> <p>☞文の終わりは「です」「ます」にそろえる等、目的や相手を意識した内容・言葉づかいになっているか読み返す。</p>
	7 学習を振り返る。(1)	<p style="text-align: center;">自分の学びを振り返る</p> <p>☞伝えたいことや気持ちが伝わる手紙になるように、どんなことに気をつけて書いたかを振り返る。</p>

次単元へのつながり：「食べ物のひみつを教えます」

- ・姿を変えて食品になる材料について調べ、例を挙げて説明する文章を書く。